

平成30年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 1 - 22
事務事業名	農業用排水路整備事業			担当課係	農林水産課農林水産担当
総合計画上の位置付け	政策	③ 未来への活力を育むまちづくり			記入担当者
	基本目標	7. 活気あふれるまちづくり			内線等
	施策	7-1 産業の振興とブランド産品育成			E-mail
	基本方針	7-1-1 農林水産・商工業の振興			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	6 農林水産業費	項	1 農業費	
	目	5 農地費	事業	8 農業用排水路整備事業	
開始年度		年度	根拠法令・要綱等 土地改良施設維持管理適正化事業実施要綱 農業基盤整備促進事業実施要綱		

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 農業用施設の整備により、環境の保全・通水改善による水害等の防止
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 食料生産の基盤である農業用水の安定的供給や洪水による農業被害を防ぐための排水を目的に、用排水路の整備補修を行う。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 土地改良施設の機能の保持と耐用年数の確保を目的に、きめ細やかな農業用施設等の基盤整備を行うものとする。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 土地改良施設の整備が進展する一方、その整備補修が極めて重要な課題となってきた。土地改良施設の整備補修については、本来土地改良区等土地改良施設の管理者自らこれを行うべきものではあるが、最近における農村環境の変化、土地改良施設の高度化、農村労働力事情の変化等社会経済情勢の変容に伴い、必ずしも円滑に行われていない実情にある。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果	
	事業（工事）の施工箇所数							
	単位		H29	H30	R1	R2		目標年度 目標値
箇所	目標	2	1					
	実績	2	1					
	達成度	100.0%	100.0%					
活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H29	H30	R1	R2	指標の説明
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		29年度決算	30年度決算	30年度予算	R1年度予算
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	27,439,560	30,798,360	38,176,000
		財源内訳	13,700,000	14,750,000	
		国県支出金			
		地方債			
	利用者負担	3,912,452	5,743,192		
	一般財源	9,827,108	10,305,168		
	B 人件費 ①×②	1,957,158	2,064,611		
職員平均人件費①	6,523,859	6,882,037			
従事した割合②/人	0.30	0.30			
A + B		29,396,718	32,862,971		
単位コスト	活動指標の説明		事業（工事）の施工箇所数：2箇所	事業（工事）の施工箇所数：1箇所	備考
	活動指標 1 単位当たりコスト		14,698,359	32,862,971	平成29年4月1日現在 人口38,817人
	市民一人あたりのコスト		757	861	平成30年4月1日現在 人口38,156人

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 地域農業者の高齢化や農業者の減少により従来の地域農業者による農業施設の維持管理が困難な状況である。排水路の機能を持った水路も多くあり、自己負担のみでは農業施設の荒廃は必至である。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 土地改良施設の整備補修については、本来土地改良区等土地改良施設の管理者自らこれを行うべきものではあるが、農村労働力事情の変化等社会経済情勢の変容に伴い難しい状況となっている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	市内の農業用施設の老朽化等により機能低下した施設が多く、農業生産の安定のために必要である。また、農業者のみでの施設維持は経済的に困難である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	住民のみで施設維持が難しいとなると、市がおこなうことに関して一定の妥当性はあると考える。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	要望に応じて必要な箇所のみ事業を行っており効率的である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	当事業は、排水機能が不足した施設の整備であるため緊急性は高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	国・県の補助メニュー等を、有効に活用しきめ細やかな農業用施設等の基盤整備を進めている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	農業者の高齢化等に伴う離農による耕作放棄地の拡大により、管理されなくなった水路等の農業施設の増大が懸念される。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	2	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由	当事業は、国、県の補助事業の採択基準に適合するもので緊急性が高い排水路のきめの細かい農地の基盤整備事業である。今後も継続すべき事業と考える。	
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点				
		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点				評価点 65
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点				2
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下				

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	2	1 拡 充 す る	判定説明	一次評価と同じであるが、用排水路の整備については、何らかの形で行う必要があるため、この事業を継続して行く。
		2 現状のまま継続する		
		3 改善・効率化し継続		
		4 終期設定し終了		
		5 完了・休止・廃止		